

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	北相木村
------	------

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業 (木製コサージュ制作)
事業費		66,000 円 (うち支援金: 66,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

卒業生に木工製品から木や自然を身近に感じてもらい、北相木の森林・林業に興味を持ってもらうことで、北相木の山の将来を考えてもらうきっかけにしたい。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 卒業生 他

(3) 実施方法

- ・木材の鉋屑を利用した木製コサージュを卒業生に身に付けてもらう。
- ・卒業式等のイベントにて、キノハナを飾り、木の香りや木の魅力を感じてもらう。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和元年度～令和 4 年度)

木製品の活用方法の拡大

②令和 3 年度実績

木製コサージュ: 20 個



(左)
小学校
13 個

(右)
保育園
7 個

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心を高める。また、枯れることはないののでいつでも北相木小学校・保育園で体験した林業体験を思い出してもらいたい。

(2) 継続性

- ・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらおう。
- ・木材の新たな利用方法として認知してもらい、利用方法の拡大を図る。

(3) 普及性

- ・卒業生の大半が県外でもあり、県内外に北相木産カラマツや木材の利用方法拡大、PRを実施できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・コサージュから漂う木の香りや、木によって違う花の色を見て、木に興味を持ってもらえた。
また、林業体験や木工体験の記憶を思い出してもらえた。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・毎年、卒業生へのプレゼントにしていきたいことを検討したい。また、ワークショップなどを通して、木との触れ合える機会を増やしていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(公共施設木製品設置)
事業費		301,400 円 (うち支援金: 310,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村診療所 及び 介護施設

(2) 対象者 施設利用者及び村民、来場者

(3) 実施方法

北相木産カラマツを使用した木工製品(看板・収納ボックス・イス・テーブル)を制作し配置する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度)

木製備品の設置

②令和 3 年度実績

診療所: 木製看板 6 枚, 木製イス 1 台

介護施設: 収納ボックス 1 台, 介護補助テーブル 3 台



(左)

診療所

木製看板

(右)

介護施設

介護補助テーブル

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、村内外の来場者に木材・林業への関心が高められた。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識してもらい、将来的には公共施設の木質化を進めていきたい。さらには、一般家庭への木質化の普及に取り組んでいきたい。

(3) 普及性

- ・診療所や介護施設の利用者に地元材(北相木産カラマツ)の良さが伝わることで、今後の森林整備・木材利用の推進につながる可能性がある。
- ・公共施設の木質化を進めることで、木材に見たり、触れたりする機会が増え、木の魅力発信に繋がっている。また、施設内が木質化されることにより雰囲気も良くなる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに来場者が興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。
- ・施設内の木質化が進んだことにより雰囲気が良くなった(今まではプラスチック・合板テーブル使用)。

(2) 課題

- ・村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が、今後の取り組みの課題である。
- ・設置したカラマツ家具等を見てもらい悪いイメージを改善していきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
3	みんなの暮らしを守る森林づくり	防災・減災のための森林調査事業 (ドローンによる上空からの森林調査)
事業費		269,500 円 (うち支援金: 163,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

- ・北相木村の集落周辺に広がる里山は、古くは地域の共有林として管理され個人分割された森林が多く、燃料革命以降、森林の燃料としての利用が低下したことに伴い、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。森林所有者の山離れも深刻で、このまま放置すれば倒木や山崩れなど災害の発生を誘因することも懸念される。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

- ・村民の暮らしを守るための森林整備を効果的に進めるために、優先順位を決めて森林整備を進めていくことが重要だと考えている。そのために、北相木村の里山の全体的な森林状況を把握し、効率的に現地調査・森林整備を行い、里山の「防災・減災」につなげて行く。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村 山木 (村有林)

(2) 対象者 村民

(3) 実施方法

- ・ドローンにより今年度村有林の森林整備エリア (山木地区) を調査する。その後、今回の調査データを元に個人有林や里山林の森林整備の計画に使用していく。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

- ・村内の集落・農地周辺の里山林を中心に撮影し、「防災・減災」に向けた森林整備の基礎資料として活用する。(R5 年度以降についても、毎年継続し実施して行く。)

②令和 3 年度実績

- ・ドローンの購入、整備が必要な森林の抽出や調査に活用した。
- ・今年度村有林の森林整備エリア (山木地区) の調査データとした。



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・ドローンを活用して上空から森林調査を実施することにより、村民の暮らしを守る森林づくりのための調査データがくれた。

(2) 継続性

- ・里山整備を効果的に進めていくために、継続し実施することが必要だと感じた。また、里山整備の促進につながる事が期待できた。

(3) 普及性

- ・ドローン空撮の写真を活用し、住民や森林所有者への説明することにより、森林整備の理解や協力を得やすくなる。
- ・里山の森林整備が進むことで、村民の生活が安心感を得られる。
- ・身近な里山が整備されることで村民が森林や森林整備に興味を持ちやすくなる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・ドローン空撮の写真を活用することで森林調査の簡素化に繋がる可能性が感じられた。
- ・森林所有者や村民に現状の森林の様子を説明しやすくなると感じた。
- ・里山林の整備の促進に活用していけると感じた。

(2) 課題

- ・森林整備を進めるにあたり、村民のカラマツに対する悪いイメージの克服が今後の取り組みの課題である。
- ・森林整備の必要性のPRや再造林の必要性などを伝えていくことが必要になると思う。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

公共施設への普及を図っていききたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)